

社会貢献活動 (2022 年度)

1. 学生ボランティア活動

学生団体のボランティア活動で以下のような活動を展開している。

1) ボランティア・まちづくり活動助成

ボランティア活動に取り組む学生団体や、まちづくりに携わるゼミ等を応援するために、大学同窓会と共催で活動への助成を実施。2022 年 6 月 18 日に公開審査会を行い、12 団体に対し総額 30 万円を助成した。また、上尾市社会福祉協議会に協力いただき、地元上尾市で活動をする団体を対象に、赤い羽根共同募金から 3 万 5 千円の助成をいただいた。さらに、教職員や卒業生から寄付を募り総額 31,000 円が集まった。

2) 主な学生団体のボランティア活動

■ 聖学院大学ボランティア・アソシエーション：GRACE

学内での全学礼拝やキリスト教行事への奉仕活動にとどまらず、学外でのボランティア活動も展開。この他 2022 年度は、学生や教職員に「ウクライナ緊急募金」を広く呼びかけてユニセフを通じて募金活動を行った。

■ 学生有志によるボランティア活動

子育て支援施設との交流は昨年度に続きオンライン中心に実施したが、ほかの分野の活動に関しては、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、徐々に対面での活動を再開させた。大学最寄り駅で月 1 回行われる清掃活動や、行政や NPO 主催のイベント出演やブース出展等で学生有志が活躍した。

■ 学生有志によるシトラスリボンプロジェクトへの協力

昨年度に引き続きコロナ禍の偏見や差別をなくそうというメッセージが込められたシトラスリボンの制作会を学内で実施。制作したリボンは「シトラスリボンプロジェクト in さいたま」を通じて地域で配布された。

2. 地域連携・ボランティア活動

1. 震災学習・防災活動

1) 震災学習

2011 年 12 月より東日本大震災復興支援活動に取り組む。2022 年度は徐々に対面のツアーを再開

させるため、2022年8月のツアーは一部の教職員と学生リーダーは現地に出向き、現地からオンライン配信を行うハイブリッド型で実施。2023年2月には、2019年12月以来となる完全対面でのツアーを実施した。

日程	内容	場所	参加人数
5月14日	春の東北“オンライン”スタディツアー 現地の方々からお話をうかがったほか、学生企画による自宅の防災グッズを点検する企画を行った。	オンライン	・学生14名 ・教職員9名
8月5日、6日	夏の東北“オンライン”スタディツアー 現地の方々からお話を伺ったほか、リーダー学生たちが現地の魅力を紹介した。	宮城県石巻市からオンライン配信を行い、ハイブリッドで実施	・学生12名 ・教職員9名 ・卒業生3名 ・外部1名
2023年 2月18日～20日	冬の東北ボランティアスタディツアー 伝承施設の見学、現地の方々からお話を伺ったり、交流の機会を持った。	宮城県石巻市、女川町	・学生17名 ・教職員8名

2) 防災活動

東日本大震災を風化させないことや、地域の防災への関心を広げることを目的に学生たちが防災教室やヒーローショーを実施。

日程	内容	場所	参加人数
6月25日	大学主催のほたる祭りにて、防災戦隊マホルンジャーの活動を行う有志学生が防災の大切さを伝えるヒーローショーを実施した。	聖学院大学	・学生7名
8月20日	公益財団法人いきいき埼玉主催のけんかつサマーフェスティバルにて、防災戦隊マホルンジャーの活動を行う有志学生が防災の大切さを伝えるヒーローショーを実施した。	埼玉県県民活動総合センター	・学生6名
8月21日	防災戦隊マホルンジャーの活動を行う有志学生が非常食の備蓄の大切さを伝えるヒーローショーを実施した。	埼玉県防災学習センター	・学生4名
8月28日	防災戦隊マホルンジャーの活動を行う有志学生が災害直後のとるべき行動を伝えるヒーローショーを実施した。	アリオ上尾	・学生4名
10月15日	上尾市立南中学校の生徒に向けて、学生有志が防災授業を実施した。	聖学院大学	・学生2名
10月23日	公益財団法人いきいき埼玉主催の彩の国いきいきフェスティバルにて、防災戦隊マホルンジャーの活動を行う有志学生が災害時に起こりうる火災時にとるべき行動を伝えるヒーローショーを実施した。	埼玉県県民活動総合センター	・学生5名
11月26日	上尾消費生活展実行委員会主催の第40回上尾消費生活展にて、防災戦隊マホルンジャーの活動を行う有志学生が防災の大切さを伝えるヒーローショーを実施した。	アリオ上尾	・学生6名
11月28日	女子聖学院中学校の生徒に向けて、学生有志が防災授業を実施した。	女子聖学院中学校	・学生4名
2023年 2月18日	チャレンジスクールに参加する小学生に向けて、学生有志が防災授業を実施した。	さいたま市内公立小学校	・学生2名
2月26日	日北スクール・サポート・ネットワーク主催の防災教室にて、防災戦隊マホルンジャーの活動を行う有志学生が防災の大切さを伝えるヒーローショーを実施した。	さいたま市立日進北小学校	・学生6名
3月1日	聖学院中学校の生徒に向けて、学生有志が防災授業を実施した。	聖学院中学校	・学生1名
3月8日	埼玉県立日高特別支援学校中学部、高等部の生徒に向けて、学生有志が防災授業を実施した。	オンライン	・学生2名

2. 地域連携活動他

2013年4月、地域連携・教育センターを開設し、地域連携活動を積極的に展開している。2022年度は新型コロナウイルス感染症対応のため、オンライン活動を継続しながらも、徐々に対面活動も再開させた。

日程	内容	場所	人数
6月19日	学生ボランティアが一般社団法人すくすく広場と主催の「すくすくあそびのひろば」に協力	北川辺ライスパーク	・学生3名
7月2日	学生ボランティアが子育て支援センターあすなるとの交流会を実施	オンライン	・学生4名 ・親子約5組
7月7日	学生ボランティアが認定 NPO 法人彩の子ネットワークとの交流会を実施	オンライン	・学生5名 ・親子6組
7月23日	学生ボランティアが一般社団法人すくすく広場と主催のプチ・パントリーに協力	加須市内	・学生5名
8月12日	学生ボランティアが認定 NPO 法人彩の子ネットワークとの交流会を実施	オンライン	・学生3名 ・親子7組
8月20日	公益財団法人主催のけんかつサマーフェスティバルにて、学生ボランティアが子ども向けに工作ブースを出展	埼玉県民活動総合センター	・学生3名 ・親子約10組
8月26日	学生ボランティアが子育て支援センターあすなるとの交流会を実施	オンライン	・学生4名 ・親子約5組
9月17日	学生ボランティアが子育て支援センターあすなるとの交流会を実施	オンライン	・学生2名 ・親子約5組
9月23日	学生ボランティアが一般社団法人すくすく広場と主催のプチ・パントリーに協力	加須市内	・学生1名
10月21日	学生ボランティアが子育て支援センターあすなるとの交流会を実施	オンライン	・学生3名 ・親子約5組
10月30日	学生ボランティアが一般社団法人すくすく広場と主催の「すくすくあそびのひろば」に協力	北川辺ライスパーク	・学生5名
11月3日	ヴェリタス祭にて、学生ボランティアが認定 NPO 法人彩の子ネットワークと連携し「子ども服交歓会」を実施	聖学院大学	・学生14名 ・親子30組
11月20日	学生ボランティアが一般社団法人すくすく広場と主催の「すくすくあそびのひろば」に協力	北川辺ライスパーク	・学生3名
12月4日	杉戸町観光協会主催の日光街道杉戸宿宿場まつりにて、茶道部表千家の学生が来場者にお茶を振る舞った	新津神社周辺	・学生6名
12月17日	学生ボランティアが一般社団法人すくすく広場と主催のプチ・パントリーに協力	加須市内	・学生2名
12月21日	学生ボランティアが認定 NPO 法人彩の子ネットワークとの交流会を実施	オンライン	・学生3名 ・親子14組
12月24日	学生ボランティアが子育て支援センターあすなるとの交流会を実施	オンライン	・学生3名 ・親子約5組
1月21日	学生ボランティアが一般社団法人すくすく広場と主催のプチ・パントリーに協力	加須市内	・学生1名
2月19日	学生ボランティアが一般社団法人すくすく広場と主催の「すくすくあそびのひろば」に協力	北川辺ライスパーク	・学生2名
3月4日	学生ボランティアが子育て支援センターあすなるとの交流会を実施	オンライン	・学生2名 ・親子約5組
3月18日	学生ボランティアが一般社団法人すくすく広場と主催のプチ・パントリーに協力	加須市内	・学生2名

3. 学生サポートメンバー養成講座

学生と共につくる、育つセンターを目指し、2012年のセンター開設時から年1回、「聖学院大学のボランティア活動を盛り上げる」学生コーディネーター養成を目的とした講座を実施。

3. 防災用備蓄倉庫・防災拠点校

上尾市と防災用備蓄倉庫の使用等に関する協定書を交わし、2009年より毛布、担架、発電機など非常用の備蓄品を本学倉庫に設置している。

また2012年には災害時における防災拠点校の使用に関する覚書を交わした。

4. 避難施設の指定について同意

本学は埼玉県、国民保護法第148条1項に指定する避難施設の指定について、2011年に同意をした。

5. 避難所開設訓練

聖学院大学は災害が起きた場合の上尾地区住民の避難場所となっている。(2015年度より)年数回の上尾市・上尾地区の方と災害時避難所開設の打合せ、年1回上尾市・戸崎地区の方と避難所開設訓練を実施している。